

教育長定例記者会見 会見録

日時：令和4年12月15日（木）11時00分～

場所：教育委員室

発表項目

- ・ 令和4年度三重県優秀選手・指導者表彰式を開催します
- ・ 「SNS・ネットの上手な使い方講座」の出前授業を行います

質疑事項

- ・ 令和5年度当初予算要求状況について
- ・ 今年最後の会見について

発表項目

○ 令和4年度三重県優秀選手・指導者表彰式を開催します

三重県教育委員会では、学校スポーツで優秀な成績を収められた選手、指導者を表彰する令和4年度三重県優秀選手・指導者表彰式を開催いたします。日時は令和5年1月6日、15時からです。三重県庁講堂で行います。表彰の趣旨ですけれども、この表彰は国民体育大会、全国中学校体育大会、全国高等学校総合体育大会等の全国大会において、優秀な成績を収めた県内の中学校・高等学校等の生徒、指導者について、県内学校スポーツの範となりえたことの栄誉を讃えて表彰するものです。三重県優秀選手・指導者表彰要領に基づき、国民体育大会・全国障害者スポーツ大会をはじめ、以下の8つの大会において、個人は1位から3位、団体は1位から4位の成績を収められた生徒、指導者、学校対抗1位から3位の成績を収めた学校を表彰するものです。あわせて特別優秀選手賞についても表彰いたします。資料(3)のところで、表彰数は7団体6校、選手は108名で指導者は28名となっております。2ページに複数の入賞もありますので、のべ人数を書かせていただいております。3ページ以降が詳しい内容で、5ページからの冊子が被表彰者一覧という形になっております。6ページが三重県特別優秀選手の被表彰者一覧となっております。9ページ以降が、国民体育大会等の具体的な表彰選手・指導者あるいは学校の名前を記載しております。

○ 「SNS・ネットの上手な使い方講座」の出前授業を行います

児童生徒がSNS等の適正利用やインターネットの有効活用のための知識と態度を身につけられるよう、公募で集まっていた県内の高校生が、静岡大学教育学部大学院博士課程在学中の安永さんと三重県公立小学校教員の指導のもと、小学校高学年の児童を対象とした「SNS・ネットの上手な使い方講座」の授業教材を作ってもらって、その教材を活用した出前事業を行うものです。教材作成と出前授業の実施者ですけれども、四日市商業高

校の1年生3名、津商業高校の2年生3名、名張青峰高校の2年生1名の合計7名の生徒です。出前授業の日程ですけれども、今年12月19日にいなべ市立笠間小学校と鈴鹿市立深伊沢小学校。20日には桑名市立城東小学校と鈴鹿市立栄小学校。2月1日はオンラインになるのですけれども、御浜町立御浜小学校他で行います。2月2日は実際の授業で、名張市立名張小学校と松阪市立第二小学校です。授業は45分で高校生2人が実施をいたします。オンライン形式による実施は、希望される小学校を一斉につないで、今は10校程度が参加の予定となっております。今回、出前授業を希望された小学校の中で、オンラインも含めて授業を行えなかった学校には授業用のDVDを配布いたします。授業の内容ですけれども、高校生7名が作成した情報モラルに関する授業教材を、対話形式の授業で実施いたします。後で少し見ていただきます。授業では、小学生のSNSやインターネットの知識を確認した後、高校生が作成したSNSやインターネットの使用方法を考える動画を見て考察を深めて、トラブルや被害を未然に防ぐためにできることについて考える内容となっております。

これまでの経過としては、7月27日に研修会に参加をしてもらって、8月9日と26日に教材及び授業案を作成してくれました。10月16日に授業に向けた練習会を実施しております。出前授業後の取組ですけれども、小学生は、出前授業から感じたことや考えたことをまとめて、発表し合うことでSNSやインターネットの正しい使い方や未然に防ぐ方法、あるいは困ったときの対処方法などについて理解を深めます。高校生は、授業をしてもらって小学生が出前授業を受けて感じたこと、考えたことのフィードバックを通じて、SNSやインターネットの正しい使い方についてより高校生も意識を高めてございます。これらの取組で作成した教材や指導案については、現在準備中なのですけれども、「STOP! いじめ」というポータルサイトに掲載して、各学校で使用できるようにいたします。私からの説明は以上なのですけど、作ってもらった教材を見ていただきます。

～「SNS・ネットの上手な使い方講座」動画 放映～

全部ではないのですけど、一部見ていただきました。最後のなんで来るのというのは、どうしてその子が来るのと捉えたのと、歩いてくるのか自転車で来るのか、それとも電車で来るのかということを知ったのですけれども、お互いが違う思いで聞いていたということです。

発表項目に関する質疑

○ 令和4年度三重県優秀選手・指導者表彰式を開催しますについて

(質) 3ページの過去の表彰数と比べて、選手の人数も多いのかなと思うのですけど、今年の表彰者数や何か特徴とかがあれば教えてください。

(答) まず人数的には、合計がないので申し訳ないのですけれども、2ページの対象大会のべ数というのがあるのですけれども、ここに記載してあるのが団体も個人も入れて全

部で199になるのですけれども、これは過去5年間で最も多い人数、学校数になっております。ここに載ってない方も含めて頑張ってもらったのですけれども、例えば9ページを見ていただきますと、国民体育大会が栃木でありましたけれども、その1番上のアーチェリーは少年男子優勝ということで、県立四日市四郷高校なのですけれども、初めて全国制覇をいたしました。四日市四郷高校のアーチェリーに所属している生徒は、ほとんどが高校になって初めて始めたということです。中学校の時に運動部活動以外の文化部活動をした生徒も選手として参加して、優勝に至るまではトーナメントなのですけれども、全てシュートオフという延長戦を制して、これまでの取組の成果がようやく実ったかなと思っています。他の選手や高校もそれぞれ頑張っていたのですけれども、国体の中の1つとしてそういうものがございます。

○ 「SNS・ネットの上手な使い方講座」の出前授業を行いますについて

(質) インターネットの適正利用とかそういった何か問題意識というか、背景が決められていれば教えてください。

(答) 今回、高校生が教材を作って小学生の高学年を対象に出前授業を直接やらせようということにしたわけなのですけれども、小学生が専用のスマートフォンを用いるという割合が高くなっております。学校でも学習端末が整備されている中で、日常的にインターネットとかSNSを活用する状況がございます。そういう中で、子どもたちがトラブルの被害者にも加害者にもなることなく、適切に利用して欲しいということで、今回こういった取組をさせていただきました。その際、もちろん授業でもそういうことはしているわけなのですけれども、より年齢が近く利用も多くしている高校生がそういう指導内容を作って直接指導して、学校の中でもやりとりをしながら、問題点を深めるということがいいかなと思って、今回こういう取組をさせていただいたところです。

(質) 安永先生は何かそういう子どもたちのインターネットの利用とかそういうことに詳しい方なのですか。

(答) そうです。静岡大学の方なのですけれども、今博士課程に在学中の方なのですけれども、この安永さんが所属している研究室に塩田准教授が見えるのですけれども、この方が文部科学省のICT活用教育アドバイザーとか、情報モラル教育の授業の検討委員会の副座長を務められていまして、三重県にも令和3年度に情報の教職員対象なのですけれども、情報の研修にも来ていただいております、その研究室で安永さんが色々な研究とか活動されていることで今回お願いをさせていただきました。

(質) この高校生が作成した授業教材を見せていただきましたが、これはどれぐらい高校生が形式とかアイデアを出し合って元からこういう映像の形式にしましょうと決まっていたのか、高校生がこうしたいという感じなのか、どんな感じで決まったのですか。

(答 生徒指導課) この教材に関しては、全て高校生がこういうふうな形にしたいという話し合いの中で決めて、最初は動画もなく話すだけの内容だったのですけれども、やってい

く中で動画を見ながらの方が伝わりやすいという意見が出て、動画を作成するということになりました。

(質) 安永さんには報酬は出ているのか。

(答) そうです。

(質) いくら。

(答 生徒指導課) 2万円です。

(質) それは1回2万円ということで、何回か来てもらったりはしたのか。

(答) 1回です。あと費用としては、高校生が集まる時の旅費や、県内の教職員の人にも見てもらっていますので、その人の旅費というくらいです。

(質) いやいや、安永さんの分は。

(答) 安永さんの分は2万円のみです。

(質) 授業を受ける小学生は、オンラインを含めて全員で何人くらいですか。

(答) オンラインを除くと233人です。

(質) 今、除きましたね。

(答) 除きました。233人です。

(質) オンラインは何人ですか。

(答) オンラインが、今参加できる学校をまだ調整中ですので。

(質) 今のところ、大体どれくらいですか。

(答 生徒指導課) 300から400人くらい。

(質) オンラインを入れて300人か、オンラインだけか。

(答) オンラインを除いて直接授業を聞くのが233人で、オンラインを入れると300から400人くらい。

(質) オンラインを入れると。300から400人はオンラインで。

(答) 間違えました。オンラインだけで300から400人ということです。

(質) 全体では500、600人くらいの子どもが授業を受けるということか。

(答) そうです。

(質) 先ほど教育長の話の中で、小学生の子がスマホを持つ割合が高くなっているという話があったのですが、具体的にスマホの所持率や使用率の数字はありますか。

(答) 三重県の数字ではないですが、三重県も以前取っているのがあるのですけれども、令和4年3月に公表されている内閣府の全国データですが、母集団が10歳から17歳の5000人を対象にアンケートをして、3395人から回答があつて、その結果は、子ども専用のスマホを使っている割合が10歳で48%、11歳が61.8%、12歳が84.8%ということになっています。今申し上げた10歳の48%は、専用で持っている割合になっています。利用の方なのですけれども、これも違うデータになりますけれども、今年度の全国学力・学習状況調査で、児童生徒の生活習慣とかの調査があるのですが、小学校6年生で普段、月曜日から金曜日で、1日あたりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォン

ンでSNSや動画視聴などをしますかという問いがございます。それについて小学校6年生は、平日3時間以上使っているというのが21.3%です。その中には、スマホを使って勉強やゲームをした時間は除いてという設問になっています。ですので、携帯電話やスマホでSNSや動画視聴を3時間以上した割合が21.3%。小学校の三重県の数字です。

(質) 三重県。

(答) 三重県です。令和4年度の小学校6年生に。

(質) 全国学力調査の三重県分ということ。

(答) そうです。

その他の項目に関する質疑

○ 令和5年度当初予算要求状況について

(質) 予算要求額が出ているけど、来年度の。教育委員会全体の中で、新規で特にこれだけは目玉というか、それはないですか。絶対それは予算査定で落としたいもの。

(答) 多くあるのですけれど、不登校の取組、継続的に重ねている部分があるのですけれど、県立の教育支援センターというのを設置したいと思っております、継続事業も含めてなののですけれど、不登校支援はさまざま今までもしているのですけれど、そこをもっと総合的にやっていきたいと思っています。

(質) 支援センターは今までなかったのか。

(答) 小中学校対象は市町が設置ということで、県内に20箇所あります。小学校、中学校が対象です。

(質) これは高校向けなの。

(答) そうです。

(質) これは津につくるの。1箇所つくって。

(答) そうです。津を考えています。オンラインとかいろんな手法もありますので、必ずしもそこに来なければ支援ができないということではなくて、いろんな方策は考えたいと思っています。

(質) これは基本的に授業をフォローする、生活習慣とかもフォローするところなの。

(答) そうです。授業もなののですけれど、どうしてもいろんな外の人との関わりが少ないということがありますので、できれば同世代の人と、勉強以外の場面でも交流する機会になったり、話をしたりする場ということでつくりたいと思いますし、その際、学習の支援というの、あわせてできればと考えています。また、カウンセリングとか相談機能もそこに持たせたいと思っています。

(質) 既存のフリースクールとの連携はどうするの。

(答) 今もネットワーク会議にも参画もさせていただいて、フォーラムを開催されている部分についても、我々も一部ですけれど経費を負担させていただいている現状です。フリ

ースクールの方でやられる事業の中で、例えば体験事業とかカウンセリングが必要な場合とかについて、一部になりますけれども、事業費を補助、支援させていただいてるところがございまして、今後また連携について、さらにどういうことができるか、我々も考えていきたいですし、いろんな話もしていきたいと思っています。

(質) センターですが、全国での県立の設置の状況って、ほとんどができているとか、そうでないとか、ありますか。

(答) 高校生対象の部分は、どちらかというと少ないです。

(質) 東海三県であるの。

(答 生徒指導課) 東海三県では、岐阜県があります。

(答) 全国で10くらい。いろんな対象とかやり方が違いますので、数えるのはなかなか難しいですけど、なんらかでしているのが10県くらいです。

(質) 不登校の高校生の支援をする、県立の施設は全国で10県くらいと言っていいですか。

(答 生徒指導課) そうです。10県くらいであると。

(質) 岐阜県は最近つくったのですか。

(答 生徒指導課) 手元に資料がないのですけれど、そんなに以前からあったわけではありません。また必要であればお伝えさせていただきます。

(質) ちなみに県立高校の生徒の不登校の率とか数というのは増えているの。

(答) 数はそれほど増えてないのですが、高校生の人数そのものが少しずつ減っていますので、割合としては若干増えています。ただ、小学校はかなり増えているということに比べると、率としてそんなに増えているわけではないです。あと、中学校も増えていますが、実数としては増えてないということです。あと、先ほどおっしゃっていたもう1点は、予算要求の段階ですので、私がやりたいという思いでしか言えませんが、キャリア教育はこれまでやってきたわけですが、そこをもう1回、学習指導要領とか社会が変わる中で、社会で求められる役割とか変わってきていますし、いわゆる人生100年時代ということで、私らの時代でしたらどちらかと言うと、学校を卒業した時に勉強から離れるとか、勉強を終了したという意識を我々持ってしまっていたのですが、これからは学校で十分学んで、その学び方とか学ぶ意義とか学ぶ必要性というのを認識してもらって、卒業して社会に出た後も、必要な時に必要な内容を学んでいけるような姿勢とか資質をつけてほしいと思っています。そういうのは元気プランでもキャリア教育の三重モデルというのを書かせてもらっているのですが、その取組もできたらやっていきたいと思っています。今までも地域課題解決型学習とかSTEAM教育ということでやっているのですが、そこに高校で学んでそのいろんな取組をしている中で、例えば創造力とか自己肯定感とか社会で求められている能力がその取組前にどうだったとか、その取り組んだ後、生徒がどうだったかということを自己認知もできるようなことも考えて、生徒が学ぶ意義を感じ取ってもらって、その後の卒業した後にもつなげていってほしいと思っています。

(質) 設計図はいいけど、実行力が胆。

○ 今年最後の会見について

(質) 今年最後の会見らしいけど、1年振り返って、特に印象に残ったことと来年に向けての抱負をお願いします。

(答) 今年度もまずコロナの部分ですけど、2年度、3年目でコロナ禍での学校生活、学校運営3年目ということで、この夏には特に熱中症もあって、感染対策と熱中症対策の両立でございました。また、これまでコロナで取り組んできた様々なことを継続するとともに、科学的な知見でここまではしなくても大丈夫、必要な対策はこういったことというのがわかってきましたので、その対策を進めてきたことと、一方で、基本的なマスクとか感染対策をいかに継続するということと、子どもたちの体験活動も含めた学校生活をいかにその中で充実させていくかを、年間を通じてかなり事務局の関係課とも十分議論しながら、現場とも話を聞きながら対応してきたところでございます。来年度に向けては、今年度に今さっき申し上げたような不登校であれば実証事業をやらせていただいたり、夜間中学にもつながるような、まなみえという取組もさせてきていただいたところで、来年度に向けては、元気プランに今後の必要な施策を書かせていただいたところもありますので、その内容で、本当に三重県で学んでいる子どもたちがいきいきとやっていける取組を1つでも具体的にやっていきたいと思えます。

以上、11時28分終了